
平成 30 年

5 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

新たなブランドづくり

中濃農林■加工用さつまいも さつまいも新産地づくりに向けた第一歩～移植機実演会～

中濃地域では加工用さつまいもの新産地づくりのため、試験栽培を本年度から始めており、JAめぐみのを中心に生産者募集を行い、次年度からの作付面積拡大を計画している。

5月24日、さつまいも栽培に関心がある農家を集め、専用機械による移植実演会を、美濃市大矢田地区20aのほ場で実施した。農家、営農指導員など21人が参加し、熱心に機械操作を見学した。農業普及課では、地域に適する品種選定のため実証ほを設置し、品種選定・こよみの作成を行い、岐阜県の新たなさつまいも産地を目指し、栽培技術の確立を推進していく。



【移植機実演の様子】

東濃農林■アスパラガス 栽培技術研修会で産地づくりを支援

農業普及課では、5月9日に瑞浪市の生産者ほ場で今年度第1回目の「アスパラガス研究会」を開催し、新規栽培希望者1名を含む生産者10名が参加した。研究会では、農業普及課から、立茎や病害虫防除など今後の栽培管理のポイントを説明し、栽培技術に係る研修を実施した。本研究会は、昨年度、栽培技術研修会や販売促進に関する検討を行う場として立ち上げたもので、アスパラガスのミニ産地づくりをめざして今年度も活動していく。

今回の研究会では、ほ場で生育状況を確認しながら、直売所で販売する際の出荷規格や、PR方法等に関して参加者間で積極的な意見交換や検討も行われた。

農業普及課では、引き続き研究会の活動を通じて栽培支援を行う中で、管内アスパラガスの栽培技術の向上と生産拡大を進めていく。



【ほ場での意見交換】

多様な担い手づくり

可茂農林■美濃白川就農応援会議 全体会議および研修開始式

5月18日、白川町黒川マルケにて美濃白川就農応援会議の全体会議および研修開始式が開催され、構成員および事務局、あすなる農業塾長、研修生等29名が出席した。

全体会議では、今年度の事業計画が検討され、あすなる農業塾長によるOJT研修を中心に、就農支援や就農相談活動などを積極的に実施していくこととした。

研修開始式では、今年度の3名の研修生に研修認定証が授与され、来賓の白川町長や可茂農林事務所長等より激励の言葉があった。研修生からは、意欲を持って研修に取り組んでいくという抱負が発表された。

農業普及課は、今後も新規就農者の育成に関係機関と連携して積極的に取り組んでいく。



【研修開始式の様子】

革新支援センター■農業高校生 加茂農林高校生産科学科のGAP講義

5月28日、農業経営課の革新支援専門員が美濃加茂市の加茂農林高校生産科学科畜産専攻の3年生11名に対し、畜産GAPの講義を行った。

講義では、GAP概論「GAPの意義と意味」と題し、20世紀末のEUでの化学肥料の多用や狭い土地での家畜飼養により発生した環境汚染問題がGAPの起源であることや、GAPは将来地球上で生きる子供たちのための持続可能な社会づくりを考えた取り組みであることを解りやすく説明した。

飛騨牛及び鶏を飼育する同校では、今年度中に中央畜産会のGAP取得チャレンジシステムの確認を受けることを目指して生徒が中心となって農場リスクの低減を進めてゆく計画であり、農業経営課は次世代の岐阜県農業を担う人材づくりのため関係機関と連携して支援を行ってゆくこととしている。



【熱心に聴講する農業高校生】

売れるブランドづくり

岐阜農林■えだまめ 県GAP確認制度生産者研修会開催

5月14日、18日の2日にわたり、JAぎふ島支店、合渡支店において、JAぎふえだまめ部会員を対象に、県GAP確認制度申請希望者の研修会を開催し、のべ64人の生産者が参加した。

当部会では、今年度中の県GAP確認制度の申請を目標として取り組んでいる。4月の研修会で自己点検を行っており、今回は事前調査で申請希望のあった部会員を対象に、JAぎふ事務局担当者から、管理規則等について説明が行われた。

農業普及課では、今後もJAぎふと連携し、県GAP確認制度の普及推進を図ると共に、GAPの取り組みのステップアップに向けて情報提供等を行っていく予定である。



【研修会の様子】

西濃農林■なす なす独立ポット耕栽培を実証中～JAにしみの海津なす部会～

JAにしみの海津なす部会では、なす独立ポット耕栽培の実証に取り組んでいる（新技術導入普及支援事業）。実証ほでは、4月1日に定植し、5月4日から収穫が始まった。5月上旬以降、気温が上昇し、水分不足によると思われる草勢低下が見られたが、給液濃度を薄めて灌水回数を増やすなど栽培管理方法を改善した結果、草勢は回復してきた。農業普及課は、給液の管理とともに、夏期高温対策としてタイベックシートをベンチ上に展張し、培地温上昇を防ぐ試験を行う予定。



【5/15の生育状況】

郡上農林■夏秋トマト 岐阜県GAP確認制度の研修会を開催

農業普及課では、JAめぐみの新規就農研修施設「郡上トマトの学校」の研修内容を充実させるため、座学を含む研修会を毎月開催している。5月16日は、「岐阜県GAP確認制度」をどのように取り組んでいくかを課題として取上げ、郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会の技術研究部会と合同で研修会を開催した。

GAPを進めるにあたり生産者にとって、GAP適合基準に即しているか否かの判断が難しい事や記帳が煩雑である事が問題となっている。そこで農業普及課から判断基準が分かりやすく、効率的な記帳ができる様式を示すと共に、模擬的な農場審査を行い、改善点を説明した。

今回は農作業が忙しい時期の研修会であったため、参加人数は少なかったが、研修生や技術研究部会の意見を取り入れ、郡上の地域性を踏まえた岐阜県GAP確認制度の取得を支援していく。



【GAPの項目を確認する研修生、技術研究部会】

下呂農林 ■ GAP 岐阜県 GAP 確認通知書がエゴマ生産者に交付

5月19日、イオンモール各務原にて「岐阜県GAP確認通知書交付式」が開催され、県農政部長から下呂市内のエゴマ生産者へ確認通知書が交付された。

県では、食品安全・環境保全・労働安全などの観点から農業生産の持続性を確保するため「岐阜県GAP（農業生産工程管理）確認制度」を昨年11月に創設、現地審査を経て今回エゴマをはじめ県内生産者6名に対して、第1回目となる確認通知書が交付された。

農業普及課では、現地審査に向けて管理記録作成や安全な作業レイアウトなどを指導した。今後もGAPの取り組みを維持、拡大するためエゴマだけでなく米や野菜の生産者へも支援を行う。



【農政部長から交付を受ける生産者】

住みよい農村づくり

揖斐農林 ■ 3町、JA 揖斐地域農業振興連携会議開催

揖斐農林事務所農業普及課は、5月31日に管内の3町、JAの関係者により、揖斐地域農業振興連携会議を開催した。会議では、今年度の普及指導計画の課題や取り組み内容、県の農業振興事業、農地整備事業、各機関の農業振興計画、営農指導計画、販売計画等について幅広く情報提供及び意見交換が行われた。会議を通じて、担い手育成や所得向上、GAPの推進など、揖斐地区の農業振興のため連携して取り組もうとの機運が高まった。

農業普及課では今後も関係機関と連携し、普及指導計画の達成に向けて活動を展開していく。



【連携会議の様子】

飛騨農林 ■ 宮川小学校 食味コンクール国際大会出品に向けて出前授業

飛騨市立宮川小学校（飛騨市宮川町）では、以前から郷土学習の一環として稲作体験を行ってきたが、今年は収穫したお米を「米・食味分析鑑定コンクール：国際大会」の小学校部門に出品する予定である。

5月14日に宮川小学校で開催された田んぼの学校活動事業の出前授業では、農業普及課から「飛騨のお米について」と題して講演を行った。当日は3年生から6年生の12名の児童を前に飛騨地域の稲作に関する状況や美味しいお米づくりに取り組む理由などを解説した

ところ、児童たちは地元で色々な種類のお米が作られていることなどを知って感心し、自分たちもコンクールでの入賞を目指して美味しいお米づくりにチャレンジしようと思欲的になっていた。

農業普及課では、今後も宮川小学校の稲作体験を支援するとともに、様々な機会に国際大会をPRし、地域全体で美味しいお米づくりに取り組む機運を醸成していく。



【出前授業の様子】